

# 平成 30 年度 第 1 回焼津市自治基本条例推進委員会 会議録

日 時 平成 30 年 5 月 9 日(水) 14:00～16:20

会 場 市役所会議室棟 202 号室

出席者 ・ 焼津市自治基本条例推進委員会委員 8 人

- 委員 今井 邦人 (学識経験者)
- 委員 大石 智之 (事業者の代表者)
- 委員 青島 弘 (地縁コミュニティの代表者)
- 委員 兒玉 叔雄 (公益コミュニティの代表者)
- 委員 河村 直美 (公益コミュニティの代表者)
- 委員 岡本 喜美子 (公募により選出された市民)
- 委員 関 富美子 (市長が特に必要と認める者)
- 委員 近藤 征夫 (市長が特に必要と認める者)

- ・(事務局) 堀内 千穂 (市民部市民協働課長)
- 内田 有紀 (市民部市民協働課市民協働・男女共同参画担当係長)
- 堀内 基 (市民部市民協働課市民協働・男女共同参画担当主査)
- 石橋 俊佑 (市民部市民協働課市民協働・男女共同参画担当主事)

欠席者 委員 古川 譲治 (事業者の代表者)  
委員 大石 光宏 (公募により選出された市民)

次 第 (1) 開 会

(2) 議事

- ・自治基本条例の見直しに関する意見書について
- ・平成 30 年度の自治基本条例推進委員会の活動について
- ・平成 30 年度まちづくり市民集会について
- ・自治基本条例普及活動について

## 議 事

### 1 自治基本条例の見直しに関する意見書について

- ・委員長より意見書(案)を説明

<児玉委員>事務事業マネジメントシートは計画として出すものなのか。

<事務局>事業ごとに、事業の経緯、予算、年度目標などを文章と数字でまとめたもの。各課で事業の評価も行う。シートには、自治基本条例との関連を書く欄があるが、未記入のシートが多かった。年度の締めにあたる事務事業マネジメントシートの記入の時期に合わせて、各課に記入の依頼をした。

<今井委員長>例えば、自治基本条例の中に「情報の管理及び提供」の条項があるが、それに関連する課が、自治基本条例との関わりをちゃんと書けるということが大事。

<大石智委員>関連を理解していなければ書くことはできない。ここはこう関連するということを示していかないと、シートは埋まらない。そういうところの理解を深めていく方が達成度は高まる。

<今井委員長>市職員の条例への理解を深めることについては、意見書1ページの1の意見の中で、研修やO J Tの充実として書いている。そこには事務事業マネジメントシートをどう書くかということも含まれている。自治基本条例を意識した仕事、仕事の評価。趣旨としてはそういうことを書いている。

<事務局>事務事業マネジメントシートの書き方については、事業ごと関連条文や取組内容を例示して記入の依頼をした。まずはシートに記入してもらうことが大事。

<関副委員長>意見書2ページに「事務事業マネジメントシートの作成を通じた(略)積極的かつ全庁的に推進していただくとともに」とあるが、市民協働課で記入の例示をしてすでに取り組んでいるのだから、表現を変えた方がよいのではないか。

<今井委員長>「(略)より一層積極的かつ全庁的に…」という表現にすればよいか。ほかはどうか。3ページの「Ⅱ. 条例の見直しに関する検討について」は前回の皆さんの議論から、委員会としての結論をまとめた。この内容でよいか。

<関副委員長>市長に向けて出す意見書なので、もう一度しっかりと読み込みたい。

<今井委員長>事務局に確認するが、意見書案は今日、委員の皆さんの了承が得られたら、これを出すことになるのか。

<事務局>次回の会議が夏になってしまうが、これまでの議論から条例の改正をしないという方向なら、スケジュール的には結論を出すのは次回でも可能。

<今井委員長>スケジュール的には許されるということなので、細部まで見て意見のある人は意見を出してもらい、それを反映した結果については委員の皆さんにフィードバックして共有する。全委員が納得できるものになりたい。ただし、次回、必ず最終決定をする。意見のある委員は、なるべく早く、意見を書いた書面を事務局に送ってほしい。

## 2 平成 30 年度の自治基本条例推進委員会の活動について

- ・委員長より資料の内容を説明

<今井委員長>2月は現委員の任期満了の時期となるので、次期委員へバトンを渡すという意味でなんらかの活動のまとめを行っていく必要があると考えると、8月と11月に想定されている推進委員会に市民との懇談会というものを持っていくということも考えられる。今年度残り3回の委員会について何をやっていくか、何をやるのが有意義なのか、改めて話し合いをしたい。

<近藤委員>地域でのまちづくりについて、都市計画マスタープランに基づき豊田地区がこれから始めようとしている。和田地区には地域活動交流センターができた。学校と公民館を併設して、集会室も広々として、地域の交流施設として非常にいいんじゃないかと思う。

<青島委員>地域交流センターは、公民館の老朽化による建て替えを検討する中で、和田小学校の南校舎が開いていたため、そこを改修して、公民館、学童、体育館などを複合した施設とした。機能的にこの辺りにはない施設。

<今井委員長>地域交流センターをつくるときには、地域の人参加してつくったのか。

<青島委員>建設時に向けた地域づくりの委員会を組織した。自治会関係者だけでなく、ボランティアも参加している。施設も公民館ではなく地域活動交流センターとし、「わかしお」という名称になった。名称は小学生から募集した。

<今井委員長>近藤委員はこれまでも地域での普及という意見を出されている。和田地区でまちづくりに関わってくれている人と一緒に自治基本条例について考え

る推進委員会を開催するというのもひとつのアイデア。

<近藤委員> 地区によって考え方は違うと思うが、中老会が中心となって地域の活性化や子ども達との繋がり、次世代との連携の役割を担っている。推進委員会で中老会と対話の場があってもいいのではないかな。市全体ではなく、地区単位で。

<今井委員長> 意見書については、次回推進委員会の最初の5分くらいで最終決定をする。次回8月に何をやるかをまず決めておきたい。どんなことが有意義で実現できそうか。

<大石智委員> まちづくりのキーパーソンを集めて、自治基本条例の理解を深めてもらうというのは、自治基本条例の普及についての実践になるわけだが、逆に、自分自身が勉強不足で、この自治基本条例がうまく運用できた場合にどうなるのかイメージがわからない。条例がある場合とない場合、どう違ってくるのか、自分でも腹の中に落ちていなくて伝えたくても伝えられない。であれば、キーパーソンと一緒に、自治基本条例があるからこそこうなりますというイメージを作りたい。

<今井委員長> 例えば、推進委員とキーパーソンの集まりの時に、ゲストとして新城市の人に来てもらうというのもある。若者政策、若者会議など、自治基本条例を具体的な形にする、仕組みにするというところでは進んでいる。新城市では、自治基本条例をつくってこういう形で具現化したという話を聞くと、焼津市ではどうなのかヒントにできるかもしれない。そういう腹落ち感を推進委員自身が持つことも大事。

<大石智委員> 新城市の人たちがどういう姿を目指してやっているのか、そういうところを聞ければ。我々も目指すなら、共有した方がいい。自分が関わっている分野で考えるので、目指すところがいろいろあると思う。共通した目指す姿は必要ではないかな。

<今井委員長> 新城市の人をゲストとして呼ぶ方法、実行委員同士の交流を図る場とする、視察に行く。どのようにやるかを含め、宿題とする。少なくとも、次回やることについて決めておきたい。

<河村委員> 今回は、私の中では和田の地域交流センターでやりたいと思っている。6月9日に市民公益活動事業費補助金の公開プレゼンテーションがあるので、その場で、今度自治基本条例の懇親会があるので出てみませんかと発掘してもいいのかな。この10人だけで話していても広がりが無い。せつかく「わか

しお」でやるなら、和田地域の方に来てもらったり、学童があるなら教育関係の方に来てもらったり、市議会議員にも声をかけてもいいのかなとも思う。私たちが話し合っていることをいろんな人に聞いてもらいたい。そういう意味では、キーパーソンにも来てもらって、実は自分たちのまちづくりと自治基本条例は密接に関係していると知ってほしい。

### 3 平成30年度まちづくり市民集会について

<今井委員長>時間もないので、まちづくり市民集会と合わせて考えていきたい。まちづくり市民集会は1月に開催するが、実行委員会の本格スタートは8月からになる。テーマについて、「安心して住み続けられる地域づくりをオール焼津で進めていくには」ということを、社会福祉協議会や焼津市が進めている地域包括ケアと関連付けたテーマにしていけるかという話をしてきた。そちらの準備もしながら、8月の推進委員会を実施することを考えると、今でもやれる相手を想定しないと難しい。だれが一番実現可能性が高いのか。あるいは、スケールを小さくして、ゲスト参加者に話し合いに加わってもらおうなど。

<関副委員長>河村委員の話も必要だし、新城市の人の話を聞くのもいいことだと思う。両方やるのは大変か。

<河村委員>新城市の方はこちらがお金を出してでもいくという形にしないと、向こうから来てもらうのはおかしい。

<事務局>実現できるかわからないが、提案がある。市民協働推進員研修で自治基本条例の研修を年1回行っているという話をしたが、そこに新城市に来ていただき、自治基本条例推進委員会と一緒に実施することにすれば予算対応も可能。ただし、新城市と推進委員会の日程調整も必要になるので、約束はできない。

<今井委員長>実施するとすれば、いつ頃か。

<事務局>未定。昨年の市民協働推進員研修は7月、10月、12月に行っている。

<今井委員長>推進委員会で何をやるかは別の話として、推進委員会の研修で今年は新城市の方を講師とすることで検討してほしい。そこで、新城市では自治基本条例をどのように具現化しているのかということをお互にも学ばせてもらうという趣旨で行いたい。

<事務局>もうひとつ、市民協働課が関わっている団体にミニ市民集会に入ってもらおう

のがやりやすいと考えると、和田でやるのであれば、多文化共生担当で和田の地域交流センターを使って「日本語講座」を行っている。そこに関わっている人なら地域のことも少しわかっているので呼びやすいかと思う。

<今井委員長> インターナショナルはいずれやってみたいテーマではある。  
8月の推進委員会についてはどうか。

<兒玉委員> くるさ〜に来る、市民活動に積極的な人はどうか。

<今井委員長> いろんなテーマ、いろんな分野の人たちが集まるイメージ。その人たちなら、実現の可能性はあるか。

<兒玉委員> できると思うが。くるさ〜でだめと言われなければ。

<河村委員> 自治基本条例のリーフレットを貼ってもらって、今度この懇親会があるが参加してみませんかという広報だけは頼めるのでは。

<兒玉委員> 来てくれる人は結構いると思う。そういうのが好きな人たちが集まっている。

<今井委員長> 試行的に、委員以外の人を含めた普及活動、学ぶための活動、自治基本条例をどのように具現化していくかを考える機会としていく。8月は、くるさ〜に来ている市民活動の人たちと懇談会をやることを検討する。

<事務局> くるさ〜にリーフレットを貼りだすだけ、お知らせするだけでは参加者は集まらない。推進委員の方が知り合いに声掛けをして集めてもらわないと、くるさ〜に来ている人と言ってもほとんど集まらないのが現実。

<今井委員長> 参加者を集めるため、開催趣旨などをまとめたチラシを用意して、それぞれが動くということでしょうか。その内容の検討は、兒玉委員、河村委員を中心に相談にのってもらおう形で、8月の第2回推進委員会の懇談会のテーマや趣旨、やり方などの企画をつくるということで進めてほしい。  
まちづくり市民集会については、これまで「福祉」という地味だけど大事なテーマでできないかという話をしてきた。実行委員会の立ち上げは8月頃だが、社会福祉協議会がどのようなことをやっているか勉強した方がいいと思っている。皆さんのお考えを伺いたい。

<関副委員長> 「福祉」という言葉はあまり使いたくない。それをテーマにして市民集会を開催すると、広く市民を対象としているように受け取られないかもしれな

い。地域の支え合い社会を築くにはというようなテーマにしたい。

<今井委員長> 実行委員会の中で、テーマやプログラムを検討していくことになるが、対話交流から一步踏み出して、市民の側から市の政策にインパクトを与えとか市の政策とつながっていくということを見据えると、実行委員会を始める前に少し勉強の方がいいかなど。そのためには勉強会を6月か7月にやるかという話になるがそこまでやるのかという意見もあるだろう。そこを確認したい。

<関副委員長> 事前にやるなら7月末くらいにならないか。

<今井委員長> あるいは、事前の勉強会を実行委員会のキックオフと併せてやるのも回数や負担を増やしすぎないという意味で良いのではないか。8月の実行委員会のキックオフの時に勉強会をやる想定で、今日欠席の古川委員や社会福祉協議会に相談することとしたい。

<関副委員長> その前に、支え合いをテーマにするかどうかは決まっていないので。

<今井委員長> 勉強会をスタートにしながら、それをテーマにするかも含めて考えればいいと思う。話題提供のイメージで。

#### 4 自治基本条例普及活動について

<今井委員長> 普及活動については、資料2にある市内イベント以外での普及活動について意見を出してほしいということだが。

<大石智委員> 一般市民からすると、自治基本条例を知らない人が多い。内容まで教えるには説明しなければならないが、自治基本条例が焼津にあるということは知ってもらいたい。そのためには、常に目に付く場所に「自治基本条例がある焼津市です」というものがいくつもあるといいと思う。市役所の入口やホームページなど。何だろうこれ、と思わせることがまずひとつ。興味がない人でも、常に自治基本条例という言葉を目にしていれば、いつかそれについて知ろうとする可能性がある。そういう状況をつくるのが早いのでは。

<今井委員長> 普及について、どういうアイデアがあるかは皆さんそれぞれが考えてほしい。

<事務局> 次回推進委員会については、詳細が決まり次第、お知らせする。